

曲豆かな次貝源を未来までつなげるために

EDU TOWNの動画を見て、人類は大量生産、そして大量消費をしていると知った。このように大量生産、大量消費を続けているため、現在地球が16個ないと人類全体の暮らしを支えられないそうだった。なぜこんなにも大量生産、大量消費が進んできましたのだろうか。また、この大量生産、大量消費をこれ以上進まないと防ぐことはできないのだろうか。

1970年代以降、地球の生態系が1年間に生み出すことができない次貝源の量より、人類全体が1年間暮らしていくために消費する次貝源の方が多い状態が続いている。そうだが、このような状態では限りある地球の次貝源が未来まで残らなくなってしまうかもしれないから、と続けたいけるような生産、消費をすることが必要だと考えた。

大量生産、大量消費を止めるため日本では、1990年代後半からいくつかのサイクル法が作られ、施行されてきたらしい。2001年には、大量生産、大量消費、大量廃棄型の経済社会を、循環型社会に変えていくために、循環型社会の形成推進基本法が施行されたそうだった。

地球がひとつでは足りない？
世界では多くの資源やエネルギーを使って多くのものを生産しています。それをわたしたちが大量に消費して暮らしているのです。このような大量生産・大量消費の暮らしは、地球にとっても大きな負担をかけています。
1970年代以降、地球の生態系が1年間に生み出すことができない資源の量より、人類全体が1年間暮らしていくために消費する資源の量の方が多くなっています。現在、人類全体の生活を支えるには、地球が16個必要です。
つまり、わたしたちの生活は、息を盡ろすばかり、歯を切り落としたりして、地球の資源やエネルギーを先に使ってしまうことになってきているのです。



このように法律で社会をホッパするだけではなく、自分たちにできることを考
えて生活することも大切だと思う。例
えばマイバックを持、て包装を断た
り、詰め替える容器に入、た製品を選
んでムダなゴミを減らしたり、使わな
くな、たものの再使用に努めたり、リサイ
クル製品を積極的に利用するこ
とで、資源を生かすことなど、自分
たちの生活の中でできることはたく
さんある。

確かに法律を施行したりリデュ
ースリユース、リサイクルに積極的
に取り組んだとしても大量生産、大
量消費がすぐに止まるわけではない。
しかし、だからこそリデュース、リユース
リサイクルなど自分たちの生活の中
でできる小さなことから積み重ね
て、ムダなゴミを少しでも減らし、資
源を大切にすることで、豊かかご限り
のある地球の資源を未来へつなげ
られるようにしたい。

出典 edu town 目標 につくる責任つかう責任

国谷裕子とチャレンジ！ 未来の
ためのSDGs ③地球に関する
ゴール